

路線バス 火災事件の論争

六月七日、福建省アモイ市で路線バス火災事件が発生した。この事件で47人が死亡、30数人が負傷した。放火の容疑者は、現場で死亡したアモイ市出身の59歳の陳水総と当局が発表した。彼は、何度かバスを乗り換えて乗客の多いバスを選んでいた。

容疑者の男は遺書で、生活保護を受けるために22回政府機関に陳情したが、相手にされなかったことが原因で社会に不満を抱き、大勢の人を道連れにすることを決意したと書き残した。

媒体の記者は容疑者の住所を訪ねた。狭い空間で家族三人が生活する様子は、激しい社会変動の渦中にある中国社会の弱者であるということを、印象付ける。彼の隣人達は、彼が清潔で、一寸内向的な

人で、大きな犯罪に関わることは想像できなかったと舌を巻いた。

この数日、中国の媒体とネットで、事件の容疑者に対して論争が巻き起こった。主流媒体は、容疑者は卑劣、反社会的な人間で、沢山の何の落度もない人を殺害したことを厳しく断罪した。一方、ネットでは路線バス火災事件は、容疑者の責任か、或いは政府の責任かというテーマで投票調査が行われた。一万三千以上の人が自分の意見を述べ、約九割の人は、政

府の責任、そしてたった一割の人は、容疑者個人の責任と答えた。

この調査から中国の政府、主流媒体と庶民の意見が対立していることがはっきり分かる。この数十年の中国の経済発展の裏には、社会問題が山積している。腐敗、怠慢の政府機関は、庶民の苦痛に対して、無視或いは無神経を置く。庶民層は、改革開放の初期の希望から、一転して失望、更に絶望に陥られた。もし、今の中国の社会構造が変化しなければ、第二・第三の陳水総が出てくることになる。中国の中間階層の人々は危機感を持っている。

最近、中国のネットで、一つの投書に大勢の人が賛同している。この短文は、和訳して、以下である。

「ある意味で、あの燃え上がる路線バスは意味深長な事を比喩している。みなさんは、同じバスに乗っている。もし、一人が絶望すれば、全ての人は安全ではない。この理由で、他人の苦難と不幸は無視できない。絶望した人に助けがなければ、次の犠牲者は、私と貴方かも知れない。」

